

関門医療センター

【施設概要】

平成 12 年 7 月、国立下関病院と国立山口病院が統合し、平成 16 年、独立行政法人国立病院機構発足に伴い関門医療センターとなる。平成 18 年 3 月には、24 時間 365 日、一次～三次の救急に常時対応する ER を開設。平成 21 年 4 月、水族館跡地である下関市長府外浦に移転、同年の 10 月には大型ヘリポートを開設し、下関及び長門医療圏の第三次救急医療を担っています。



現在 34 診療科、病床数 400 床、救命救急センター、地域医療支援病院、エイズ治療中核拠点病院、災害拠点病院、臨床研修指定病院に指定されています。

【放射線科】

当院の放射線科は、診療放射線技師 16 名（パート 1 名）、放射線科医 3 名、助手 1 名が在籍しており、一般撮影装置（4 台）骨密度（1 台）、乳房撮影装置（1 台）、CT（2 台）、MRI（1 台）、リニアック（1 台）*令和 4 年度に更新予定、ガンマカメラ（1 台）、PET-CT（1 台）、血管撮影装置（1 台）、X 線 TV（2 台）、ポータブル装置（6 台）、外科用イメージ（3 台）が稼働しています。

令和 3 年にはデジタル乳房撮影装置への更新に伴い、マンモグラフィ検診施設画像認定を取得しました。当センターでは女性技師がすべての乳房撮影を行っています。又、患者さんに「安心できる放射線診療」を提供することを目的として、平成 24 年 1 月より全国で 32 番目に「医療被ばく低減施設」として認定されています。これは、医療被ばくの低減・管理を適正に行っている施設に対し与えられる施設認定で、第三者機関より客観性のある適正な評価を受け、目に見える形で放射線検査の安全性を証明するものです。山口県では当センターのみ認定を取得しています。具体的な取り組みとして、各検査の被ばく線量を線量計やコンピュータシミュレーションソフトより算出し、撮影条件の適正度や放射線による有害事象発生の可能性の有無をガイドラインの数値と比較し、細かく評価しています。また、検査の円滑な施行のための各種マニュアルの見直し、放射線機器の管理を徹底しました。その他に患者様からの放射線や被ばくに関する質問・相談に対して、スタッフ全員が適切な説明ができるように、研修会等を開催しています。これらの一連の活動は放射線

科全体のスキルアップにもつながっています。

【地域情報】



本州の最西端に位置する下関市は、豊かな自然環境に恵まれると共に、多くの歴史遺産を有するまちです。関門海峡、コバルトブルーの海と白い砂浜の角島。そして下関の味覚といえば河豚。（なかなか口にすることはできませんが・・・）

また、下関市は、源平壇ノ浦の合戦、宮本武蔵と佐々木小次郎の巖流島の決闘。そして、明治維新、高杉晋作による奇兵隊の

結成、下関四国艦隊砲撃事件など、多くの歴史の表舞台となってきた場所です。